

(5) 東 海



東海地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は下げ止まっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(「↑」は上方に変更、「↓」は下方に変更)。

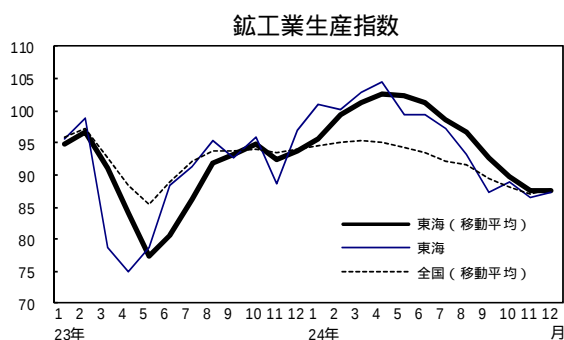
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	悪化しつつある	下げ止まっている	↑
鉱工業生産	大幅に減少	下げ止まっている	↑
個人消費	弱い動き	底堅く推移	↑
住宅建設	減少	大幅に増加	↑
雇用情勢	弱含み	下げ止まっている	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まっている。

輸送機械は、新型車効果等がみられたものの、全体ではエコカー補助金による政策効果の一巡や世界景気の減速等から減少した。一般機械は、主力の金属工作機械が、世界景気の減速等から海外向けを中心に低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォンやタブレット向けの生産が堅調だったこと等から増加した。プラスチック製品は、エコカー補助金による政策効果の一巡等を背景に、自動車向け製品が減少した。化学は、一部企業の生産設備の定期修理や化粧品生産の減少等が寄与して減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	37.5	▲12.5	▲10.1	▲9.2	▲10.8
一般機械	12.7	▲7.8	▲6.4	▲7.4	0.2
電子部品・デバイス	6.8	▲16.7	28.3	28.0	▲17.7
プラスチック製品	5.4	▲8.2	▲2.9	▲4.5	▲1.5
化学	5.0	1.5	▲1.7	1.5	▲4.9
鉱工業	100.0	▲8.4	▲5.4	▲4.6	▲2.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

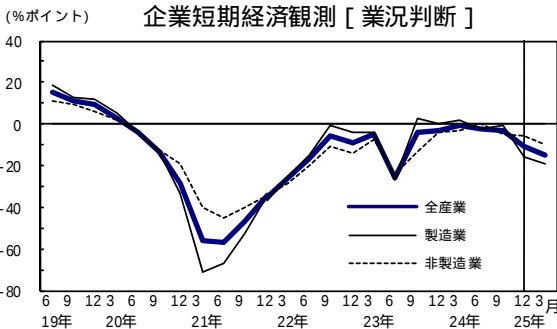
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

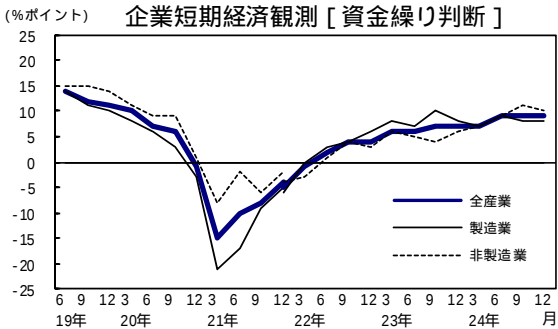
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

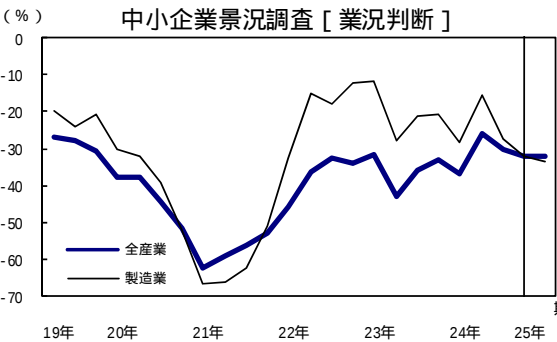
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部4地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「予算目標を上回るような受注にはなっておらず、今般の円安、株高の影響も出ていない。今後3か月の売上予測も同ようである(化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

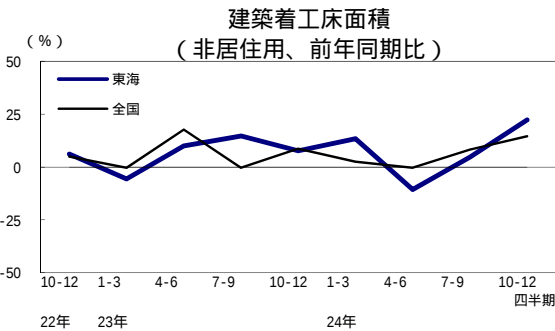
企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比、%)

	23年度実績	24年度計画
全産業	2.2	19.0 (19.2)
製造業	4.6	23.0 (24.4)
非製造業	0.2	15.6 (14.8)

(備考) 1.()は前回(9月)調査結果。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

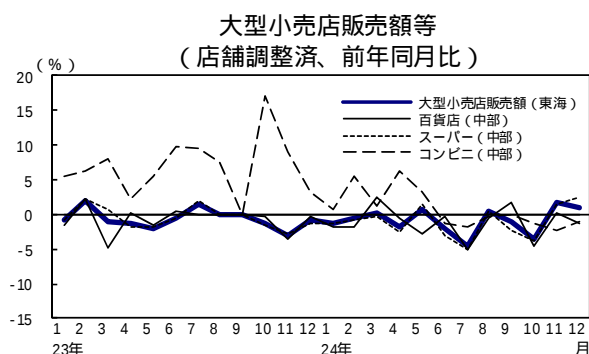
大型小売店販売額は、前年同期比で0.2%減、前期比で1.9%増となった。

百貨店は、10月は、気温が高く推移し、秋冬物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。11月は、気温低下で冬物衣料に動きがみられたこと等から前年を上回った。12月は、前月の気温低下により、冬物衣料が前倒しで消費された影響等もあって前年を下回った。

スーパーは、気温が低く推移し、衣料品や鍋物といった冬物商材が堅調に推移したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「年始の福袋販売については、前年と同様に好調であった。ただし、クリアランスがスタート後の衣料品の売上は、伸び悩んでいる。景気が上向いていても、消費にはまだ結び付いていない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	▲0.5	▲1.0	▲1.9	▲0.2
百貨店(*1)	▲0.3	▲1.3	▲1.8	▲1.9
スーパー(*1)	▲0.9	▲1.4	▲2.3	0.2
大型小売店(*2)	0.2	▲0.8	▲1.5	0.1
(季節調整値)(*3)	(0.3)	(▲2.0)	(▲0.0)	(1.9)
乗用車(*4)	48.5	73.2	16.1	▲3.4
(季節調整値)(*4)	(13.2)	(▲3.9)	(▲5.9)	(▲5.9)

(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%) 10-12月は速報値。

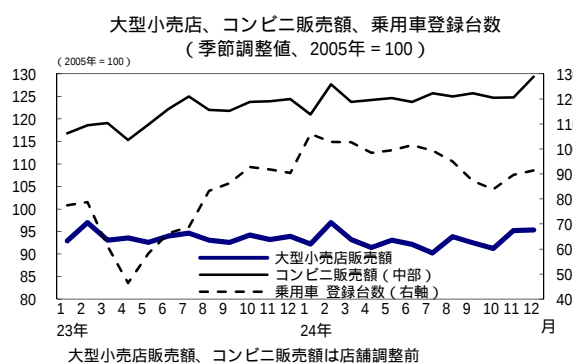
百貨店、スーパーは、中部の確報値

2. 店舗調整前、前年同期比(%) 10-12月は速報値

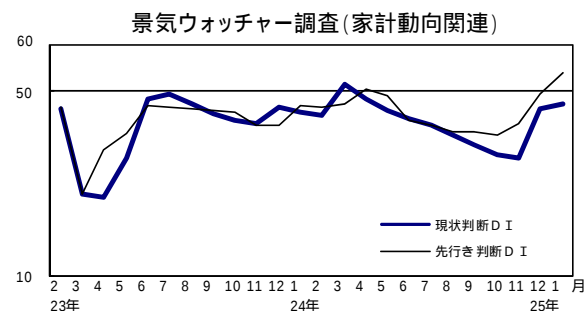
3. 店舗調整前、前期比(%) 10-12月は速報値

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



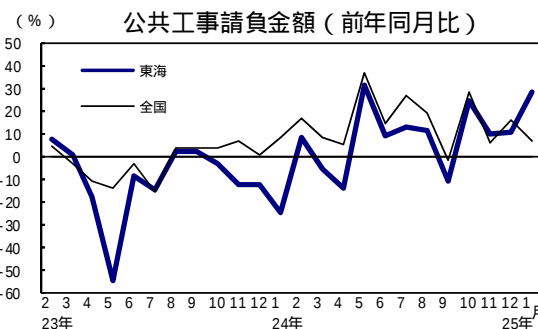
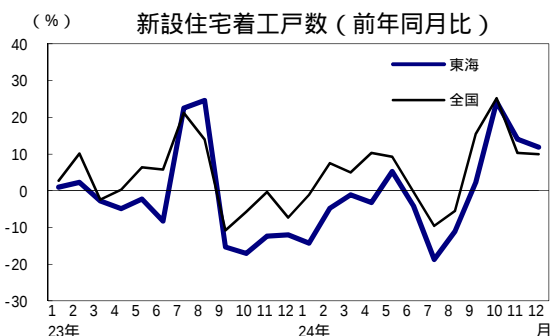
大型小売店販売額、コンビニ販売額は店舗調整前



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

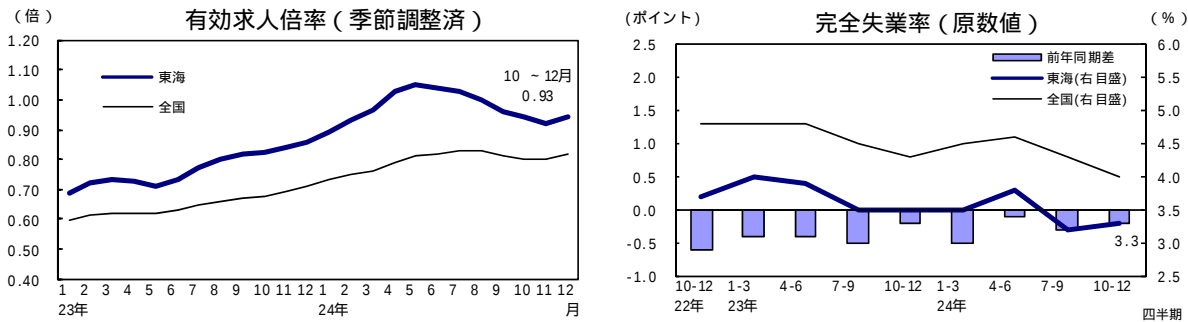
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は下げ止まっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。

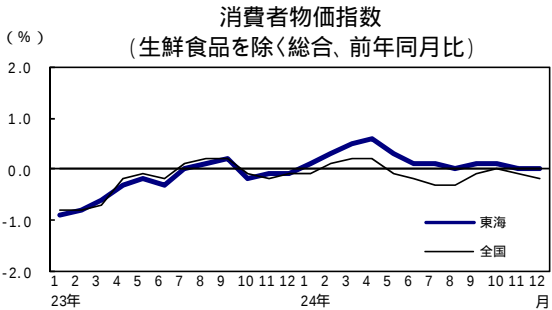


景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]
「新規求職者数は減少傾向にあったが、年明け以降は増加に転じている。契約満了、更新なし、事業縮小、事業廃止による解雇等の離職者や、契約満了を控えた在職中の休職者が目立ってきている。これは例年の傾向ではあるが、前年を上回る状況にある。特に45歳以上の中高年齢者の比率が高くなってきている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	361	383	371	310	117
(前年比)	▲14.9	▲6.6	19.7	▲9.6	▲12.0
負債総額	679	805	551	541	216
(前年比)	▲15.9	▲28.9	▲5.8	▲46.2	▲16.3



- 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- ・宝飾時計などの高額品の需要も引き続き堅調であり、今月は特にその傾向が強く表れている。衣料品なども、若干ではあるが、回復感が見受けられる (百貨店)。
- <先行き>
- ・原材料の値上げ傾向が気になる (金属製品製造業)。

